

教育現場からの報告——2021年度を振り返って

初等部

共に賛美をする喜び

古閑ひかり

初等部
教諭

2020年度から初等部の礼拝でもコロナ対応をしています。コロナ禍前のように礼拝堂に全児童揃い、祈りをささげることが難しい日々が続いています。そのため、礼拝奨励者が事前に録画したメッセージを各クラスの画面で視聴しながら礼拝を守ってきました。奨励者は礼拝堂のような広い空間では見せても伝えづらい絵や写真や本を用意し、礼拝奉仕の録画をしてきました。「コロナ禍でもできること」を探し出し、子どもたちの心にも言葉が伝わるように努めてきました。

2021年11月、コロナ感染者数が少なくなったため、礼拝堂で1学年、それ以外の学年は教室の画面の前でハイブリッド礼拝を守ることにしました。またこの頃から讃美歌を小さな声で賛美する礼拝が守れるようになりました。ICTに詳しい教員が中心となって、礼拝を各クラスに生中継をし、全児童が同じ時間に礼拝を守れるようになりました。

12月、クリスマス讃美礼拝では青山学院講堂で全児童揃って礼拝を守ることができました。2020年2月以来の全児童が同じ空間で賛美をした礼拝になりました。2022年度、一日も早く礼拝堂で全校児童が揃い、讃美や祈りを献げられることを願っています。